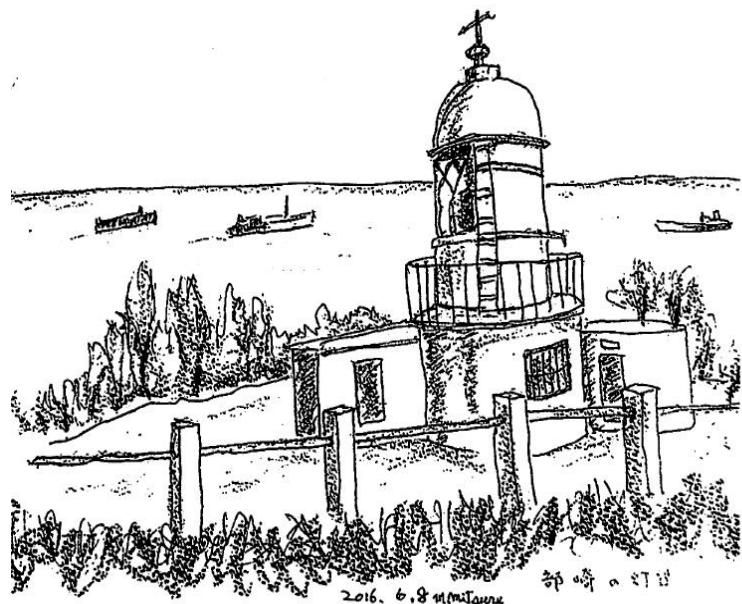


週報2021年9月19日



2021年教会標語聖句

見よ。わたしは新しい事をする。
今、もうそれが起ころうとしている。

イザヤ書4章19節

シオン教会信仰指標：“イエス様と共に歩む”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2021年9月19日

(オンライン礼拝) HP アドレス：<http://jesus.holy.jp/>

| | |
|------|------------------------------|
| 祈祷 | 開会の祈り |
| 信仰告白 | 使徒信条・標語聖句唱和 |
| 賛美 | コーラス 12「主イエスを喜ぶことは」 |
| 祈祷 | *今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！* |
| 聖書朗読 | 詩篇 37 篇 23–24 節 |
| 説教題 | 「御手に支えられて」 |
| 祈祷 | 御言葉の応答の祈り |
| 祈祷 | 祝福と派遣の祈り |

交わりの三省

- *互いに愛し合っていますか
- *互いに赦し合っていますか
- *互いに祈りあっていますか

説教要約

詩編 37 篇 23-24 節

「神の御手の内にある人生」

①怒りを捨てる事とは善を行う事

詩編37篇ダビデの詩から学ぶ最初のポイントは“憤りを捨てる”事です。これがこの箇所の大きなテーマになっています。では1節に書かれている様に、何故腹を立ててはいけないのでしょうか？それは、委ねられた神様の計画を実行する為です。つまり自分という器の中に怒りが入っていると、神様の御心が流れても、そこに入って行かないからです。怒り続けることは悪の道に続くと、ダビデは語っています(8節)

それでは“わるもの”とは誰の事でしょうか？それを読み解くヒントは詩編1篇です。ここでわかる事は、正しい人は“主の教えを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ人”です。つまり聖書の言う正しい人・善人とは、主の御心を尋ね求め、それを行う人の事です。主はその人の道を喜ばれます。つまり、詩編37編のテーマは“正しいことを行う為に怒りを捨てよ”です

詩編は怒りや、嘆きを否定していません。むしろ人生の中で必ず直面するものとして取り扱っています。つまりその時、どのように歩むべきかを教えています。その答えが“主を信頼して歩む”ことです。その信頼から喜びが生まれます。賛美の動機は主の愛のメッセージに対する応答です。どんな時も、主への信頼を続けて、賛美の歌を歌いましょう。これが正しい事への第一歩、怒りを捨てる事につながります。

②御手の内にある人生

神の言葉には力があります。では何の力でしょうか？それは、人の歩みを支える力です。もっと言うと、神の計画を追い求める人(義人)の歩みを支える力です。ダビデは度重なる試練や、失敗を繰り返し何度も躓き、倒れました。しかし、どんな時も握りしめ続けてくれる神の手、そして倒れても、引き上げられる神の手をその都度体験しました。御手の中で生かされているという事を信頼し、彼は御手の内に歩むことを告白しました。

詩編 37:23～24 節は彼の信仰告白の中心とも言える箇所です。彼の人生を

振り返ると、権力闘争に終始振り回され、信じていた人に裏切られ、そして心の拠り所を神以外に求めてしまいました。彼が最終的に拠り所にしたのは神の御手の内にある人生でした。度重なる試練によって、心の拠り所を見失ったイスラエルの民はこのダビデの姿勢に倣いました。つまり、“人生は主の御手の内にある”ことを信じました。

私達の”嘆き”的底にあるものは喪失感です。人生はこの喪失感によって悲しみ、怒り、そしてそれが嘆きに変わります。しかしこの嘆きが人生の不信感につながるか、神の言葉の信頼につながるか分岐点がやってきます。主の御手の内にある人生は永遠の喜びに繋ぐ道この体験に厚みが増し加わる事、それが私達の歩みです。全てを主に委ねて参りましょう。

③委ねる事

有名なテレビ番組に「はじめてのおつかい」という番組があります。題名通り、子供達が初めてのお使いに出かける番組です。お父さん、お母さんの伝言と買い物メモだけを頼りに子供達は買い物に出かけます。子供達にとって遠いスーパー、覚えられない買い物リスト、そして重い荷物という試練を経て、子供達は親の言いつけ通り帰ってきます。

無事に買い物を終え家路に着く子達を見た瞬間、親は満面の笑みで(時には涙して)わが子を抱き寄せます。このテレビ番組(カメラ)が捉えたいのは、この瞬間です。子供の成長を願い、買い物という仕事を託す親、そしてそれに純真な思いで応える子供。親子の喜びの根幹にあるものは結ばれた絆です。

御言葉とは程遠い生活、背負え切れない人生の重荷。私達は「倒れてはいけない！」と踏ん張ります。しかし倒れても良いのです。しかし倒れる先は主の御手の中です。聖書ではこの事を“委ねる”と言います。私達の人生は主への信頼を学ぶ旅路です。その旅路を支えるのは十字架によって結びあわされた絆・神の愛です。この愛を土台にして、祈る人、賛美する人、そして人を執り成して支える人へと変えられて行きます。主の愛に応え、日々成長する者へと変えられて参りましょう。